

平成26年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	本巣市立糸貫東幼児園		
実 施 期 間	平成26年11月20日(木)～21日(金)		
実 施 概 要	①制作物を売り買いする店と親子で楽しむ遊びのコーナー・劇場コーナー・体験型コーナーでの『お店屋さんごっこ』の保育参加 ②地域の人(健寿クラブの人)との交流会		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input checked="" type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input checked="" type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input type="checkbox"/> 授業公開 <input checked="" type="checkbox"/> 成果発表 <input checked="" type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input type="checkbox"/> その他		
来 園 者 数	保 護 者	262	人
	地域関係者	33	人
	計	295	人
実 施 状 況	<p>1.特徴的な実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記を「お店屋さんごっこ」として園を公開した。異年齢児交流保育、健寿クラブの方との交流会、地域の方、保護者、未就園児親子との交流を実施した。 ・全園児による品物作り(廃材制作)、保護者への「品物募集」の提供依頼を行った。 ・品物作りでは、地域や家庭から集まった自然物や廃材などの素材を活用し制作した。 ・本巣市内の授産施設である障害者支援センター(みつば・すぎのこ・ほたる)の商品販売コーナー、また保護者からの提供品バザーコーナーを設け、実際の売買が体験できるようにした。また、売上金17,175円は東日本大震災などの義援金とする。 <p>2.保育公開等の主な学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『話す』『聞く』の態度や意欲の育成に努める中、『役割やルールを学び社会性を身に付ける』をテーマにした。地域ぐるみの教育を推進し、心の教育の充実が図れるよう、異年齢の縦割り保育に健寿クラブ・未就園児親子・地域関係者を巻き込んでの「お店屋さんごっこ」を展開した。 <p>3.活動中の様子について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お店屋さんごっこ」では全園児で、お店屋さんの品物作り・遊びコーナー・観劇コーナー・体験型コーナーに取り組んだ。年長児・年中児が役割をもちながら、コーナーでの遊びを展開した。保護者も共に参加することでモデルとなってもらい、人とのかかわり方や運営の方法について学んだ。 ・「レストランごっこ」では、年中児・年少児が異年齢交流を通してお店を運営する中で、お客との言葉のやりとりを学んだ。 ・「健寿クラブとの交流」では、自分の名前や住んでいるところを伝え、年長児が日頃、親しんでいる手遊びやお手玉遊びで健寿クラブの人と一緒に触れ合ったり、各コーナーを一緒に回ったりしながら楽しんだ。 		



4. 外部評価や内部評価としての保護者や地域の方へのアンケート実施

- ・参加された保護者、地域住民、評価委員、評議員の方からの意見を積極的に聴取したり、子どもの姿や保育者の姿を通して園経営にかかわるアンケート調査や外部評価の実施をしたりした。
- ・親子遊びコーナー・劇場コーナー・体験型コーナーのやり方やレストラン設営等、諸意見に対して、保育者自らが謙虚に受け止めると共に改善に努め、今後の園運営の改善に活かすこととした。

成果及び課題

1. 保護者や地域の方の意見、感想

○子ども達が役割に責任をもち、生き生きと活動する姿やコーナーを順に回りながら活動に積極的に取り組める行事である。

△公開保育を通して、『あいさつ』『聞く』『話す』『意欲』の観点から、アンケート調査の意見や外部評価を得て、発達に応じた役割のもち方等、全職員がこれを周知し不備を自覚する中で、実践内容の改善及び質の向上を図るようにする。

2. 園児の姿

○子ども・親・地域・保育者が一緒になって取り組む姿勢が自然に確立されたと共に、役割やルールを決めながら、人とのかかわり方など社会性が身に付いてきた。

△遊びコーナーや体験型のお店屋のコーナーを取り入れ、親子で楽しめる場として参加できるようにした。保護者にも協力を得ながら、年長児・年中児が役割をもつこととしたが、個人差があり十分な対応や言葉のやりとりができない子もいたため、経験の積み重ねや計画の見直しを再考する。

3. 園の教育週間に係る趣旨やねらいの達成状況

○地域公開に向けての取り組みにおいて、年度当初からの地域・協力関連機関や団体及び保護者等とのかかわりの中で培われた子ども達の実践力が試される機会となり、協同的な活動の楽しさを味わえる実践となった。

△保育者自身の子どもを見る目や個別支援に対する資質を高めていかなければ保護者のニーズに専門職として応えられない。さらに研鑽を積む必要がある。

総括

幼児期からの豊かな心と生きる力を育む教育の充実を図るためには、子ども、親、地域の人々、保育者が共に育ち合うためのネットワークをさらに確立していくことが、必然であると考える。